

F&eIT シリーズ
絶縁型デジタル入力モジュール

DI-8(FIT)GY

¥23,100 (本体価格¥22,000)



※ F&eIT は、株式会社コンテックの登録商標です。
製品の価格・仕様・色・デザインは、予告なしに変更することがあります。

特長

- ・ 8点を1グループとして、8点のデジタル信号が入力できます。
- ・ 入力部は、電流シンク出力と電流ソース出力両タイプとも対応になっています。
- ・ フォトカプラによる絶縁入力で耐ノイズ性が向上しています。
- ・ ロータリスイッチにより Device ID の設定が行え、機器番号管理が容易にできます。
- ・ 他の F&eIT シリーズ製品と同様、35mmDIN レール取り付け機構はモジュール本体に標準で装備されています。また、コントローラモジュールとの接続は側面でスタック接続するユニークな構成になっているため、バックプレーン基板などの接続機器を使用せず、簡単、かつスマートにシステムを構成することができます。

商品構成

- 本体[DI-8(FIT)GY]…1
- ファーストステップガイド…1
- CD-ROM [F&eIT Series Setup Disk] *1…1
- インターフェイスコネクタプラグ…1
- 登録カード&保証書…1
- 登録カード返送用封筒…1

*1 : CD-ROM には、各種ソフトウェア、解説書、Question 用紙を納めています。

本製品は、各種コントローラにデジタル信号の入力インターフェイスを増設する拡張用モジュール(デバイスモジュール)です。F&eIT シリーズの I/O コントローラモジュール<CPU-CAxx(FIT)GY>*1、マイクロコントローラユニット<CPU-SBxx(FIT)GY>*1 と接続して使用します。

1 モジュールで最大 8 点のフォトカプラ絶縁入力ができます。(12 - 24VDC 仕様)

*1 型式内の「x」は、無記名または英数字 1 文字を表し、製品が異なります。以降同様

仕様

機能仕様

項目	仕様	
	DI-8(FIT)GY	
入力部	入力形式	フォトカプラ絶縁入力(電流シンク出力&電流ソース出力両タイプ対応)
	入力抵抗	3kΩ
	入力 ON 電流	3.4mA 以上
	入力 OFF 電流	0.16mA 以下
	入力信号の点数	8 点 (8 点単位で 1 コモン)
	応答時間	1msec 以内
共通部	外部回路電源	12・24VDC(±15%) (1 点当たり 4mA/12V・8mA/24V)
	割り込みレベル	CPU-SBxx(FIT)GY 使用時: IRQ 5, IRQ 7, IRQ 9 のいずれか 1 点
	外部回路電源	12・24VDC(±15%)
	内部消費電流	5VDC(±5%) 150mA(Max.) *1
	信号延長可能距離	50m 程度(配線環境による)
	外形寸法 (mm)	25.2(W)×64.7(D)×94.0(H)(ただし、突起物は含まない)
	モジュール本体の質量	100g
	モジュール接続方法	本体に標準装備されている連結機構によるスタック接続
	モジュール設置方法	35mmDIN レールにワンタッチ取り付け(取り付け機構は本体に標準装備)
	適合線材	AWG28・16 線形 0.32・1.30mm
適合プラグ	FRONT-MC 1.5/12-STP-3,81 (PHOENIX CONTACT 社製) 3.81mm ピッチ 定格電流 8A(Max.)	

*1 スタックコネクタの許容電流値は 3.0A(Max.)です。

設置環境条件

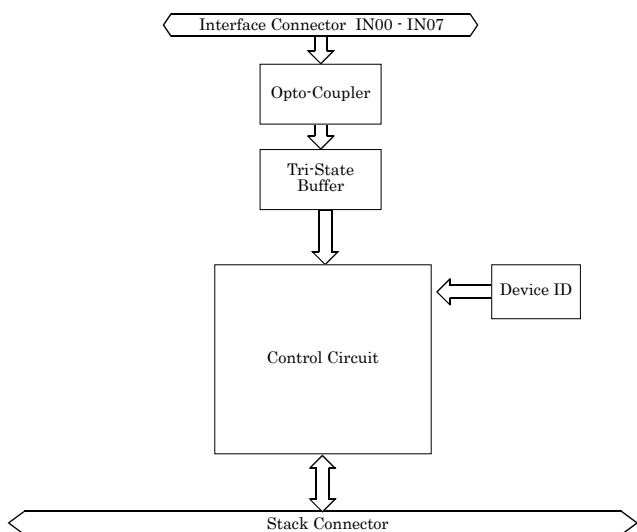
条件項目	条件内容	
使用周囲温度	0・50℃	
保存周囲温度	-10・60℃	
周囲湿度	10・90%RH(ただし、結露しないこと)	
浮遊粉塵	特にひどくないこと	
腐食性ガス	ないこと	
耐ノイズ性	ラインノイズ *1	AC ライン/2kV、信号ライン/1kV (IEC1000-4-4Level 3、EN61000-4-4Level 3)
	静電耐圧	接触/4kV (IEC1000-4-2Level 2、EN61000-4-2Level 2) 気中/8kV (IEC1000-4-2Level 3、EN61000-4-2Level 3)
耐振動性	掃引耐久	10・57Hz/片振幅 0.15mm、57・150Hz/2.0G X、Y、Z 方向各 80 分(JIS C0040 準拠、IEC68-2-6 準拠)
耐衝撃性		15G X、Y、Z 方向各 11ms 正弦半波 (JIS C0041 準拠、IEC68-2-27 準拠)

*1 POW-AD22GY 使用時

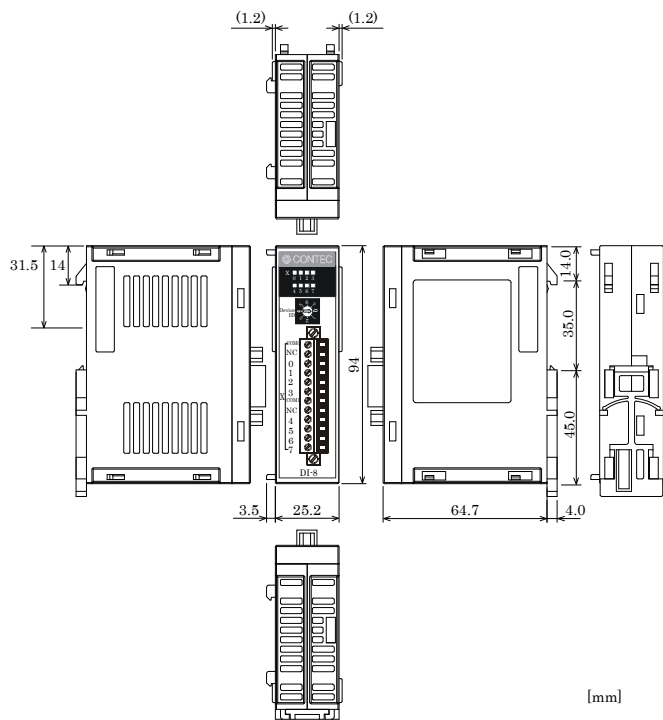
▼注意

コントローラモジュールと接続する場合は、内部消費電流を考慮してください。総和が電源ユニットの容量を越える場合は、動作を保証できません。詳細はコントローラモジュールの解説書をご覧ください。

ブロック図



外形寸法



[mm]

接続コントローラ別機能・制御方法

本モジュールは、各種コントローラに接続することができます。

対応コントローラ

マイクロコントローラユニット	: CPU-SBxx(FIT)GY
I/O コントローラモジュール	: CPU-CAxx(FIT)GY
モニタリング&コントロールサーバユニット	: SVR-MMF2(FIT)
モニタリング&コントロールサーバユニット	: SVR-MMF(FIT)GY

接続可能なコントローラおよび制御方法を確認の上ご使用ください。

コントローラとの接続対応表

	CPU-SBxx(FIT)GY	CPU-CAxx(FIT)GY	SVR-MMF2(FIT)	SVR-MMF(FIT)GY
DIO-4/4(FIT)GY	○	○	○	○
DI-8(FIT)GY	○	○	○	○
DO-8(FIT)GY	○	○	○	○
Device ID 設定範囲	0-7	0-7	0-7	0-7

○: 接続可
×: 接続不可

接続コントローラ別制御方法一覧

	CPU-SBxx(FIT)GY	CPU-CAxx(FIT)GY	SVR-MMF2(FIT)	SVR-MMF(FIT)GY
I/O アドレスマップによる制御	○			
メモリアドレスマップによる制御		○		
Windows ドライバによる制御*	FIT Protocol		○	
	API-CAP(W32)		○	
	API-SBP(W32)	○		
WEB(ブラウザから設定)による制御			○	○

* API-SBP(W32)は、開発キット[DTK-SBxx(FIT)GY]に添付。その他は、各コントローラに添付。

I/O アドレスマップによる制御

CPU-SBxx(FIT)GY と連結することで、コントローラモジュールからの I/O 命令を直接受けることができます。

メモリアドレスマップによる制御

CPU-CAxx(FIT)GY と連結することで、ネットワーク経由でホストコンピュータよりアクセスすることができます。また、コントロールモジュールの管理するメモリ上に Device ID に従って割り当てられます。ホストコンピュータ上のアプリケーションは、コントローラモジュールの管理するメモリをリード/ライトすることでモジュールを制御します。

Windows ドライバによる制御

Windows ドライバを使用しての機能および設定方法は、各モジュールの解説書およびオンラインヘルプを参照してください。

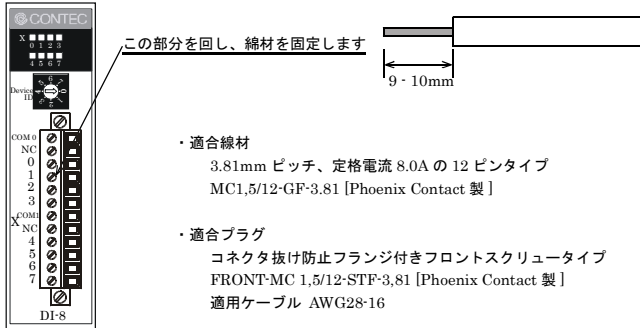
WEB による制御

収集したデータのモニタリングと履歴管理を WEB 上から行えます。各種設定は、使いなれたブラウザから簡単に行うことができます。詳しくは、SVR-MMF2(FIT)、SVR-MMF(FIT)GY の解説書を参照してください。

インターフェイスコネクタ

◆インターフェイスコネクタの接続方法

このモジュールと外部機器を接続する場合は、添付されているコネクタプラグを使用します。配線を行う場合は、線材の被覆部を約9-10mm程度ストリップした後、開口部に挿入してください。挿入後スクリューで、線材を固定します。適合線材はAWG28-16です。

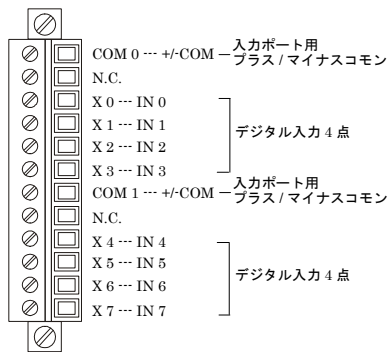


▼注意

ケーブルをもってコネクタプラグを取り外すと、断線の原因となります。

◆インターフェイスコネクタの信号配置

このモジュールと外部装置の接続は、モジュールのフェイスに装備された 12 ピンのコネクタで行います。



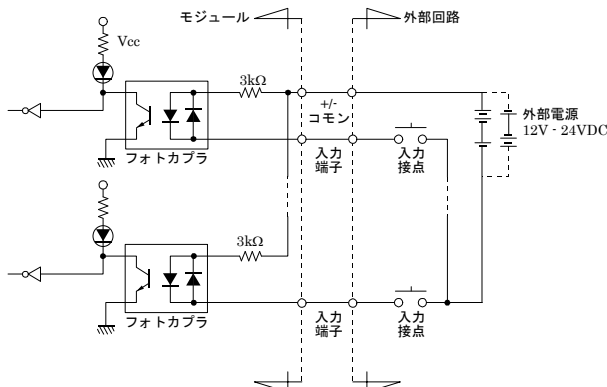
外部入力回路

■入力部

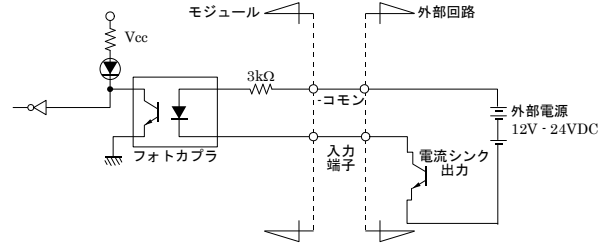
本モジュールのインターフェイス部の入力等価回路は、下図のとおりです。

信号入力部は、フォトカブラ絶縁入力(電流シンク出力と電流ソース出力両タイプとも対応)になっています。したがって、このモジュールの入力部を駆動するためには外部電源が必要です。このとき必要となる電源容量は、24VDC 時入力 1 点当たり約 8mA(12VDC 時には約 4mA)です。

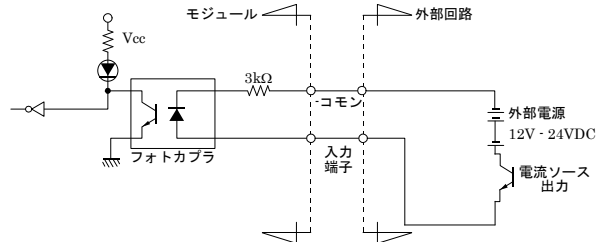
入力回路



電流シンク出力との接続例

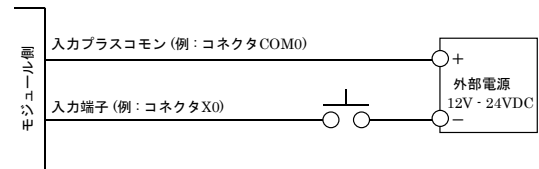


電流ソース出力との接続例

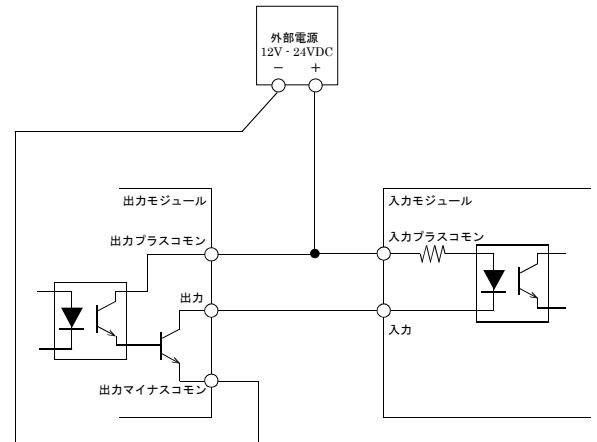


■接続例

入力 X0 の使用例



出力と入力の接続例



Device ID の設定

コントローラモジュールは接続されているモジュールを管理するために、Device ID を設定することによってそれぞれのモジュールを区別します。それぞれ違う値を設定してください。

Device ID の設定は、0-7 の範囲で設定でき、最大 8 台までのモジュールを区別できます。

Device ID の出荷時設定は「0」です。

◆設定方法

Device ID の設定は、モジュールフェイス上のロータリスイッチで設定します。

スイッチをまわして設定してください。

